

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674000316		
法人名	有限会社 アールエムシー		
事業所名	洛和グループホーム桂 1階		
所在地	京都市西京区川島調子町35-1		
自己評価作成日	平成28年10月9日	評価結果市町村受理日	平成29年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成28年4月に千代原口より移転増床し新しい場所でのスタートとなった施設としては幼老統合型複合施設洛和ウイズかつらとして小規模保育園・居宅介護支援事業所・訪問看護ステーションが一体となった施設である
日頃より園児との交流が持てる環境があり、日常的に自然にふれあえている、近所にはスーパーもありご利用者と共に買い物に出かけている。毎年中学生の福祉体験の場として提供しその場で認知症サポーター講座も開催して認知症への理解を広めている
地域との関わりはこれからの課題であるが、少しずつ地域に根ざしたグループホームとなれるように取り組んでいきたい

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2674000316-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	平成28年11月2日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年4月に移転し増床しています。敷地内に家庭菜園を持ち、季節毎の野菜を栽培し日々の食事に利用しています。併設する保育園、居宅介護支援事業所、訪問看護事業所と協力し、日々の生活がより良いものになるよう工夫されています。誕生日には園児が来所し、歌やダンスを披露したり、中学生と一緒にイモ掘りを実施するなど、入居者と子供達の交流が自然にできる環境になっています。管理者は、普通の生活を当たり前に行う、という考えを中心に運営を行っており、職員とのコミュニケーションも良好で闊達な意見交換が行われている事がうかがえます。地域との関わりに課題はあるものの、移転後間もないという事から早期に解決できるものと思われれます。外出する事が困難な方でも、近隣のスーパーに出掛けるなど、できる限り外出機会を設けることで、日々の生活に張り合いが持てるよう支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念はあるが、事業所独自の理念はなくこれから皆で考えていく予定	移転して間もない事もあり、現段階では事業所理念を掲げるまでには至っていません。地域や併設の保育園との関わりを考慮し、これから事業所独自の理念を考えていく予定です。	管理者の思いや、事業の方向性を示すことにより、職員の意識の統一やケアの実践に役立つ事から、事業所独自の理念を職員と一緒に作られる事が求められます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	リビング横の家庭菜園を地域の方に手伝っていただいている。町内会には入っていないが今後は入る予定	今後加入予定ではありますが、現段階では町内会へ加入していません。併設の保育園から入居者の誕生日に歌をうたいに来たり。中学生がイモ掘りに来るなど、交流の機会は増えてきています。	町内会へ加入する事は地域の情報を収集したり、事業所の情報を発信していくためには重要な事になると思いますので、町内会長との面会機会を早急に作り、町内会へ加入する事が望まれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座の開催を1年に1度開催予定(10/28に開催予定)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際には日々の写真などを見て頂き日頃の活動報告をしている。意見交換も行い改善に向け検討している	地域包括職員、保育園長、地域の方(社協職員)、家族参加のもと、2ヶ月に一回の開催をしています。日常生活や行事予定の報告、またサービスの在り方の意見交換などを行っています。今後は、今年8月に開所した併設の訪問看護・居宅事業所の参加も予定しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政との積極的取り組みについてはできていない	運営推進会議の議事録は区の窓口へ出向き手渡しを行っています。事業所の情報提供を行うなどの取り組みまでには至っていません。また地域包括支援センター主催の事業者連絡会への参加も現状ではできていません。	事業所側から積極的に働きかけることによって、行政側の対応も変わってきます。運営推進会議への案内や事業者連絡会への参加を積極的に行ってみてはいかがでしょうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は夜間のみ行っている 日常的には出入りは自由に行っている 虐待や拘束について冊子や研修にて再確認しながらケアを行っている	虐待防止や身体拘束廃止に向けた法人内研修に代表職員が参加し、事業所内で伝達研修を行い実践につなげています。玄関は防犯上、夜間のみ施錠しています。言葉自体が不適切にならないよう配慮し、見かけた際はその都度注意しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて学ぶ機会を持ち、事業所内にポスターを掲示し虐待の防止に注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修により制度理解はできているが周知には至っていない ご利用者も成年後見制度を活用されている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に理解、納得していただけるように説明を行っている(入居相談センターの担当者と共に)疑問等あれば迅速に対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先にご意見箱を設置している 年に一度の満足度アンケートなどにより意見・不満・要望を記入していただいている	年一回法人からの家族アンケートを実施し、意見や要望の収集を行っています。結果から改善や見直しを行い、家族へのフィードバックを行っています。本人の意向については、日々の関わりから得られた情報を振り返りシートやアセスメント票に記入し職員間で情報共有を行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ミーティングやエリア会議を開催し意見交換をしている	管理者は職員との日常的なコミュニケーションの中で意見を聞きとるようにし、また年2回の面談時にも意見を聞き、職員一人ひとりの思いを把握するよう努めています。職員の意見を反映し突然の見学者への対応マニュアルを作成するなど、具体的な運営の質向上が図られています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の自己評価表や力量評価表にて把握に努めている。全体として、改善に向けたアンケートも実施し改善に努めている 適宜、職員面談も行い把握に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修・現任研修・管理者研修等がある また、キャリアパス制度もあり、研修に参加できるよう勤務を調整している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所・会社外での交流は少ないが外部研修など参加の機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談は担当窓口を設けている。 面接時には管理者・フロアリーダーも参加しご本人のご要望・や思いなど十分に話し合っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時や契約時に聞き取りを行い、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接は管理者・相談員で行い、その後医療面からの判断も行い、複数名によりサービス利用が適正かを見極めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り一緒にできる場面作りに努めている、また自己決定ができるよう言葉かけを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況を報告したり適宜電話連絡をしている 必要時には協力を仰ぎ共に支えていく関係作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの品物や写真などを可能な限り飾っている 友人や知人などの訪問や電話なども継続し途切れないように支援している	移転したことにより、近所の馴染みの場所への外出機会を作りだすことが難しくなっていますが、家族協力もあり、お墓参りの外出をするなどの取り組みを行っています。友人の面会時にはリビングで過ごしてもらったり、居室へ案内するなど都度過ごしやすい状況になるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃からご利用者同士で関われる環境を作っているが、居室で過ごされる方や、他のご利用者とのかわりが難しい方もおられ職員が中心となり関われるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご相談等があった際は、可能な限り相談を受けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご利用者やご家族から情報を収集しニーズを把握しアセスメントを行っている ケアプラン作成時にはご本人・ご家族からの希望を聞いている	日頃の関わりや様子の変化などから、本人の意向を把握するよう努めています。振り返りシートやアセスメント票で情報を共有し、本人の希望に沿うケアができるよう常に検討と実践を繰り返しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報収集し、またご本人からの聞き取りを行い把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りで一人一人の現状を職員間で共有し、毎月あるカンファレンスでも状態の変化などを把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の変化やご利用者・ご家族からのご要望をもとにカンファレンスを行い介護計画を立案している、医師や看護師にも意見をいただいている	カンファレンス時には、ご意見シートに、本人・家族・看護師・医師の意見をいただき計画を立てています。また職員向けの意見シートに様子の変化や気付きなどを記載し、情報の共有を行っています。状態変化があれば都度、なければ3ヶ月毎のモニタリングを行い、計画の見直しの必要性を検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態は介護日誌に記録している 特変あれば日々の申し送りなどで伝え共有し検討している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療との連携をはじめ、相談ができる体制ができています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーへの買い物がいけるように支援している、また併設している保育園との関わりが持てるよう支援も行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診やご利用者・ご家族の希望に添った医療が適正に受けられるようよう支援している	入居までのかかりつけ医が家族支援のもと継続できる事を伝えたくて、本人や家族の希望医療機関での受診ができるよう支援しています。専門医や家族の希望する医療機関へ定期的に受診されている方もおり、本人にとって最適な医療が提供できるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問と24時間いつでも連絡がとれる体制ができており、必要な看護を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリー等で情報の共有を行い状態把握として面会にいたり、病院の相談員への小まめな連絡をとるようにし早期退院に努めている 常日頃からまだ出来ていない		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期医療の説明・重度化の指針など入居時に説明し理解を得ている またその場合はご家族にも説明を行い介護にあたっている 地域との関係者との取り組みについてはできていない	重度化対応の指針を作成し、本人や家族の同意を得ていますが、終末期ケアのあり方などについて、意向を確認するまでには至っていません。現状は終末期に至った際に、協力医により意向確認を行う取り組みになっています。	本人や家族の心の準備だけでなく、事業所側の体制整備にもつながりますので、早い段階からその際の意向を継続的に確認する事が望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を全職員が受けられる体制ができています。また緊急対応マニュアル作成し急変時に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署立会いによる消防訓練を行っている	年2回の防災訓練(内1回は夜間想定)を消防署の協力のもと実施しています。日中の訓練は併設の医療介護サービスセンター(訪問看護、居宅介護支援)と保育園も一緒になっての訓練となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに考慮し、1人ひとりに合った言葉かけ対応を行っている	排泄の誘導時は、本人が行きたくなくなるようなそれとない声かけ(もうすぐご飯ですけどどうします?、今ちょうど開いてますけど・・・など)を行っています。失敗があってもさりげなく居室へ誘導するなど、自尊心を保てるよう配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日とその人に合った言葉かけを行い、自己決定ができるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースを大切に、可能な限り好みに添った対応を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り、入浴時や起床時など服の選択をさせていただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、メニューを一緒に考えたり、その他準備や味付け盛り付け等を行っている 共にできない方でも言葉かけをしたり食事が楽しめるように支援している	食事は冷蔵庫の中身や前日の献立を参考に入居者と一緒に考えるようにしています。盛り付けや、調理、味見、片付けなど、一人ひとりのできる事に合わせて職員と一緒にいき、不足している食材やおやつと一緒に買いに行くなどの取り組みも行っていきます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養については状態に合わせて対応している 食べる量が少ない方はプリンやゼリー等で補い、水分量が少ない方はチェック表を活用している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、必要な方は定期的に訪問歯科にて治療を受けていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者に合わせて定期的な誘導を行ったり、パッドの確認を行っている	排泄誘導の必要な方はパターンを把握し適宜声かけを行っています。日中はどうしても必要な方以外はおむつの使用はせず、自立した排泄ができるよう支援しています。夜間も本人の意向を優先し、誘導や睡眠重視を個別に対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から乳製品の提供や水分補給、体操を取り入れる等行い便秘が予防できるように心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限りご利用者の希望に沿って入浴できるように支援している 二人介助の入浴の方も多く難しいこともあるのが現状ではある	基本的に週2回の入浴ができるように支援しています。入浴前のバイタルチェックにより入浴を控える必要があったり、本人の意向で予定日に入浴しなかった際は、入浴日を変更するなど臨機応変に対応しています。また受診日に合わせての入浴希望などにも対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息がしたいときに出来るように対応している 夜間も安眠できるように居室環境や温度設定をおこなっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルがありそれに添って援助を行っている お薬リストや一覧表にて内容の把握をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園児の来訪等が定期的により楽しみや喜びにつながっている 1人ひとりの得意なことを把握しそれがいかせるような場面の提供を意識している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候等に配慮し、短時間でも外に出るよう心がけている(買い物や散歩保育園への訪問など) 日常的に行けない場所には行事等で出かけられるように支援している	車イスやシルバーカーの方でも日常的な買い物や散歩で外出ができるよう支援しています。近距離での外出しかできない方も、併設の保育園に出向いたり、庭へ出ての外気にあたるなど、一人ひとりの状態に合わせてできるだけ外出できるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部のご利用者はお財布にお金を所持されており自身で管理されている それ以外の方も希望があれば買い物できるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の使用や手紙のやり取りの支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花の写真を飾ったり、園児からの飾りを貼ったりと工夫をしている 家庭菜園をしており季節に合わせて野菜や花を育てたりと、居心地のよい環境づくりを心がけている	リビングには食卓テーブルの他、ソファを複数置きそれぞれが思い思いに過ごせるよう配慮しています。季節毎に職員の撮った花の写真を飾り、季節を感じられるようにしています。また日頃の生活の様子をアルバムにし面会者や入居者がいつでも見られるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士の席の配置やソファの配置などで個別空間が作り出せるようにしている 各々の様子等をみて心地よく過ごせるように居場所の提供を心がけている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ馴染みのものを使っていただけのように、入居時にご家族へ話をし居心地のよい居室空間になるよう工夫している	馴染みの物を持ち込んでいたり、お気に入りの写真を飾るなど、家族協力のもと、個性的な設えになるよう工夫しています。居室の入口も一人ひとり表札や貼り紙をすることでその人らしく過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者のできる事を職員全体で把握し、出来るだけ自立した生活が送れるように支援している また生活環境の動線や整理整頓に努め安全に過ごせるようにしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674000316		
法人名	有限会社 アールエムシー		
事業所名	洛和グループホーム桂 1階		
所在地	京都市西京区川島調子町35-1		
自己評価作成日	平成28年10月9日	評価結果市町村受理日	平成29年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2674000316-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21
訪問調査日	平成28年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成28年4月に千代原口より移転増床し新しい場所でのスタートとなった施設としては幼老統合型複合施設洛和ウイズかつらとして小規模保育園・居宅介護支援事業所・訪問看護ステーションが一体となった施設である
日頃より園児との交流が持てる環境があり、日常的に自然にふれあえている、近所にはスーパーもありご利用者と共に買い物に出かけている。毎年中学生の福祉体験の場として提供しその場で認知症サポーター講座も開催して認知症への理解を広めている
地域との関わりはこれからの課題であるが、少しずつ地域に根ざしたグループホームとなれるように取り組んでいきたい

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1階と同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットごとに法人の理念は掲示している。事業所独自の理念は皆で考えていく予定。	1階と同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	1階リビング横の菜園を地域の方に手伝って頂いている。町内会に今後は入る予定。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座の開催を、1年に1度開催している。(10/28開催予定)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際、日頃の活動報告をしている。意見交換も行き、改善に向け検討している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政との、積極的な取り組みは出来ていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、夜間共に出入り口、階段、エレベーターの施錠は行っておらず、自由に出入り出来るようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年数度の研修に参加し、利用者様の意思及び、人格を尊重し、その方の立場に立ち、処遇を行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度理解は出来ているが、周知出来ない。利用者様にも制度を活用されている方がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談センターの担当と共に、契約時に理解、納得して頂ける様に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2階入り口に苦情、ご意見箱を設置している。また、年に1度の満足度アンケートにて、苦情、要望等を記入して頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ユニット会議、エリア会議を開催し、意見交換をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2度の自己評価表、力量評価表にて把握に努めている。全体として、改善に向けたアンケート、個人面談を実施し、把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画作成者研修、採用時研修、現任研修、管理者研修等の研修に参加している。また、キャリアパス制度もあり、研修に参加出来るよう調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所、会社外での交流は少ないが、外部研修等の参加の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談は、担当窓口を設けている。面接時には、管理責任者、フロアリーダーも参加し、ご本人のご要望や、思い等を十分に話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時や契約時に聞き取りを行い、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接は、管理者、相談員で分かり易く、丁寧な説明を行い、その後の医療面からの判断を行い、サービス利用が適正かを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の関わりの中で、一緒に出来ることは何かを考える事を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、電話等で、近況を伝えている。また、ご家族様から、ご意見や、ご協力を頂く事により、よりよい関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人の面会、手紙年賀状のやり取りや電話等も継続し、途切れないようにしている。また、馴染みの写真等も出来るだけ飾るようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に過ごせる時間を設けている。普段居室で過ごされている方も、随時職員と一緒に訪室する等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様からの相談があった場合は、随時相談させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中で、利用者様の思いを汲み取れるよう心掛け、出来るだけ利用者様の希望に沿った生活が出来るよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活等を踏まえ、ご家族様からの情報収集、ご利用者様との会話等からも把握出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送り等で、個々の情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等で、家族様からのご意見やご希望も含め、定期的なケアの見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には日々の様子を記録し、申し送りノートの活用、業務引継ぎの際にも情報を共有することを徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	相談や指示がいつでも受けられる体制が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーなどへの買い物がいけるように支援している。また、併設の保育園の園児たちとの交流も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2度の往診の他、ご利用者様の状態、ご家族様の希望により、他病院への受診も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1の訪問と、24時間体制が出来ており、必要な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリー、電話等で情報の共有をし、早期退院に向け、相談や話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期医療の説明を行い、ご家族様のご理解を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な救命救急講習の受講、マニュアルを作成し急変発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりに合った声掛け、プライバシーの配慮、尊厳を傷つけないような言葉掛けに気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の衣類の選択、食事メニューの選択等、出来るだけ自己決定出来る支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースで生活出来るような声掛け、配慮をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣類の選択や髪型等身だしなみを意識していた代けるよう配慮している。また、2ヶ月に1ど訪問カットを御利用頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付けを手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態や提供方法に気を付けている。また、必要に応じて、水分チェック表を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをして頂けるよう必要物品を用意し支援している。また、週1度の訪問歯科の治療や口腔ケアを御利用頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、出来るだけ一人ひとりに合ったトイレ誘導、夜間帯も定期的な支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や飲み物の工夫をし、出来るだけ自然な排泄が促せるよう支援している。また、生活の中に、適度な運動等出来るよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけご利用様の希望に沿った時間で入浴を楽しんで頂けるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ケアプランに基づき、必要に応じて、臥床して頂いたり、夜間安眠出来るよう日中活動して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って対応している。また、処方内容の変更、頓服薬を服薬された時等は、チェック表の変更、申し送り、経過観察等に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力や趣味等を把握し、出来る事を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に、近所への外気浴や散歩、併設の保育園に出掛けたりしている。また、誕生月には、出来るだけ本人の希望に沿った場所への個別外出を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者様には、家族様の同意のもとお金を所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、随時家族様への電話等対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごして頂けるよう、随時温度や湿度を調整している。また、植物の写真を飾ったりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席以外にも、ソファを置く等休める場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人や、ご家族様と相談し、馴染みの物をご持参して頂いたり、落ち着いて過ごして頂けるようしつらえ等配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は、利用者様に落ち付いて生活して頂ける事、危険が無いように気を付けている。トイレや廊下には手すりが設置してある。また、居室入り口には表札を付けている。		